

A network diagram with nodes and connecting lines. The nodes are represented by various icons: a speech bubble, a person, a gear, a percentage sign, and a document. The nodes are colored in shades of purple, blue, and pink. The background is a light gray gradient.

# 日中ガイド育成のための eラーニング教材を用いた アクティブ・ラーニングのデザイン

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院

杉江 聡子

[ssugie@imc.hokudai.ac.jp](mailto:ssugie@imc.hokudai.ac.jp)

# もくじ

1. 背景
2. 先行研究
3. 研究目的
4. 研究方法
5. 教育実践
6. 評価・分析
7. まとめ・今後に向けて

# 背景

- 教育情報化, 高等教育の質的転換,  
アクティブ・ラーニング推進
- 外国語教育：  
ICT活用、コミュニケーション活動を通じた課題  
解決能力の育成
- 教育・学習環境の国際化：  
留学生, 海外にルーツを持つ子どもたち
- 観光政策や産業主導の観光教育ニーズ：  
2020年東京オリ・パラ  
2030年札幌冬季五輪誘致  
訪日外国人観光客受け入れ環境整備  
多言語・多文化対応能力を備えた人材育成

「明日の日本を支える観光ビジョン」（観光庁, 2016）

「観光ビジョン実現プログラム2019」（観光庁, 2019）

# 先行研究：観光教育

- MICEと大学英語教育の連携可能性、実物教材と教育導入の利点について検討（上尾・野田・之・江, 2014）
- 沖縄の高校生を対象に観光教育の体系的フレームワークに基づき事例研究（寺本, 2016-2017）
- CLIL(Content and Language Integrated Learning)の理念に基づきALT等の学習指導者と共同で授業実践、家庭科の学びを外国語活動の学びに活かす合科授業の可能性を検討（星野, 2017）
- 語学の熟練＝グローバル教育実現という従来の認識を批判し、語学力のみならず、より幅広い能力や資質を育成する機会を積極的に提供する必要性を指摘し、「内なる国際化（Internationalization at Home）」（Beelen&Jones, 2015）の視点で国際共修の事例研究（末松, 2017）

# 研究目的

- **産業実務・現場のニーズに根差した観光×外国語教育のアクティブ・ラーニングをデザイン**
- **日本の高等教育機関において主要な日本人学習者＋中国人学習者の協同学習モデル構築（留学生の日本語教育・学習＋日本人の中国語教育・学習）**
- **社会人学習者（シニアボランティアガイド、観光産業従事者）向けインフォーマル・ラーニング環境の整備**

# 研究方法

- 北海道ガイド（日・中）育成のためのモバイルラーニングシステム開発（Sugie, 2019）（昨年発表）
- それを用いたアクティブ・ラーニングの設計（eラーニング×調べ学習×観光施設ガイド実習）
- 授業設計の有効性と課題を混合研究法で検証
- 学習の評価：
  - ①実務専門家（学芸員）・教員による評価と講評
  - ②ルーブリックを用いた相互評価
  - ③実習動画に基づく振り返りと再評価
- 教育デザインの評価：
  - ①社会人基礎力（総務省, 2013）を援用した協同学習スキル自己評価の量的分析
  - ②評価理由の質的分析（データ不十分）
  - ③ルーブリック評価集計とコメントの質的分析（HKCoderを用いたテキストマイニング）

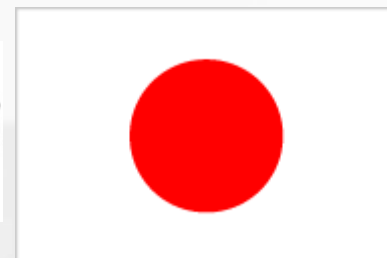
# 教育実践：学習者



## 中華圏の留学生21名

- ・ 日本語・日本文化専攻  
2年生 1名（本科）  
4年生 3名（交換留学）
- ・ 中国語・中国文化専攻  
3年生 15名（交換留学）
- ・ 異文化コミュニケーション専攻  
3年生 2名（交換留学）
- ・ 経営学専攻  
2年生 1名（本科）

中国での専攻や日本語学習歴は異なる（日本語専攻で1-3年、N2レベル程度）



## 日本人学生4名

- ・ 中国語・中国文化専攻  
2年生 3名
- ・ 孔子学院社会人受講生 1名  
（学習歴5年）

# 授業の概要

- **週1回・2コマ連続（180分）×15週（4単位）**
- **目標：北海道の観光知識・接遇語句を学び、協同学習や実習を通じて、簡単な中国語／日本語ガイドができるようになる**
- **学習環境：**  
eラーニング、会話練習、調べ学習＝CALL教室  
ガイド実習＝市内の観光施設



# 教育実践：eラーニングサイトとコンテンツ

e-Learning de 北海道x中国語ガイド

HOME 学習の進め方 全コース一覧 受講中のコース 講師にメール・質問 ログイン



ホテル 宿泊

ホテル・宿泊について学ぶ



大倉山ジャンプ競技場

リフトで山頂展望台へ！  
ジャンプ選手の視点を体験！

大倉山ジャンプ競技場について学ぶ



札幌オリンピックミュージアム

オリンピックについて学びたい。ミュージアムでウォンテース

札幌オリンピックミュージアムについて学ぶ

学習の進め方

【必ず受講すること！】このサイトで学習するやり方を読み、サンプルコースを受講して下さい。

[詳細](#)

コース一覧

全てのコース一覧です。希望の課を選んで受講して下さい。

[詳細](#)

受講中のコース

今、自分が受講しているコースの一覧です。中断した課を学習する場合はこちらから再開して下さい。

[詳細](#)

TOP PAGE

4-2-2 ジャンプ台の構造

2018年6月12日 Edit

戻る: 第04課 大倉山(前半)

続けて、ジャンプ台の長さや構造について説明しましょう。  
詳しく長い解説が続きますが、画面に表示される図やキーワードを参考にしてください。  
全体の流れをつかみ、短い文をつないで、わかりやすい説明を心がけましょう。



00:42 / 01:40

この動画教材の学習を完了

学習の進捗状況

9.09%

Lessons

- 4-1 新出単語
- 4-2 ジャンプ台紹介
  - 4-2-1 ジャンプ台の特徴
  - 4-2-2 ジャンプ台の構造
  - 4-2-3 リビーター (中日訳)
  - 4-2-4 リビーター (日中訳)
  - 4-2-5 シャドウイング (中日訳)
  - 4-2-6 シャドウイング (日中訳)
- 4-3 リフト
- 4-4 質疑応答

[メニューを開じる](#)

ビデオ教材（日/中通訳練習）

受講コース一覧

学習の進め方

杉江老师

第01課 空港出発

杉江老师

Difficulty: 初級者

第02課 交通機関

杉江老师

第03課 ホテルチェックイン

杉江老师

第04課 大倉山(前半)

杉江老师

第05課 大倉山(後半)

杉江老师

第06課 札幌オリンピックミュージアム(前半)

杉江老师

第07課 札幌オリンピックミュージアム(後半)

杉江老师


第08課 グルメ・食事 (ジンギスカン)

杉江老师

第09課 ホテルチェックアウト

杉江老师

【Q1 中→日通訳1】動画を見て、中国語を日本語に訳しなさい。



0:00 / 0:14

Normal B I U G

各課の確認テスト  
(音声入力・キー入力)

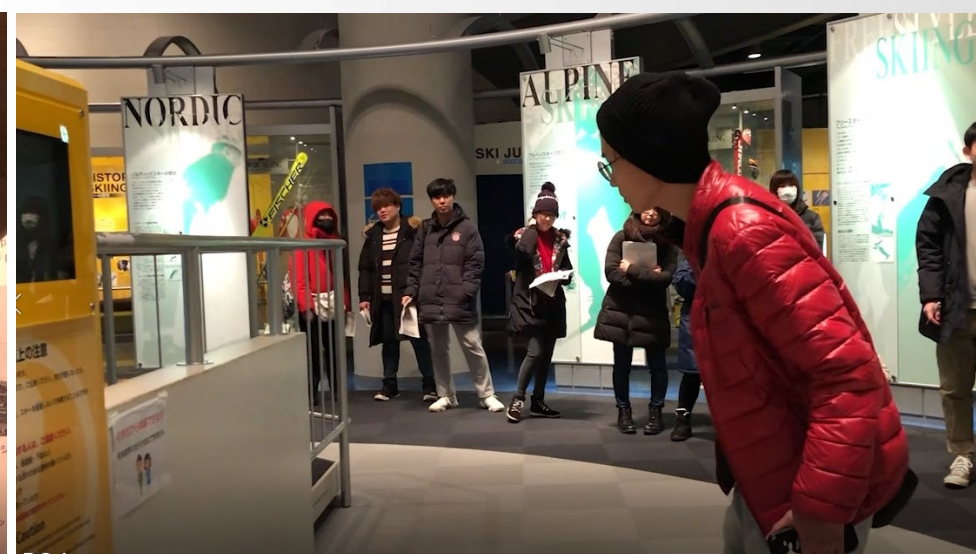
次の問題へ

1 / 10

# 教育実践：アクティブ・ラーニングのデザイン

活動	学習形態	ねらい・内容
1. 故郷紹介	個人（日） ペア（留）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外国語レベルとコンピュータ・リテラシー確認</li><li>・ PPTを用いて出身地紹介 (日本人は中国語、留学生は日本語)</li></ul>
2. eラーニング	一斉授業 個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"><li>・ eラーニングサイトでガイド知識学習・通訳練習</li><li>・ 語句とシナリオの音読・意味確認（全体・ペア）</li><li>・ ガイドの動線に合わせた場面別会話通訳（個人）</li><li>・ 各課テスト合格で電子受講証明発行（システム上）</li></ul>
3. 観光施設調べ学習	個人 グループ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 大倉山ジャンプ競技場、札幌オリンピックミュージアムについて事前調査</li><li>・ 実習発表担当箇所の分担・発音練習</li></ul>
4. 観光施設ガイド実習	個人 グループ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 大倉山ジャンプ競技場、札幌オリンピックミュージアム学芸員によるレクチャー</li><li>・ 模擬ガイド（グループ）</li><li>・ ルーブリックを用いた相互評価</li></ul>
5. 実習の振り返り	グループ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実習動画を見ながらルーブリックを用いて再度相互評価</li></ul>

# 教育実践：観光施設ガイド実習@大倉山ジャンプ競技場、札幌オリンピックミュージアム



# 教育実践：ルーブリック

【大倉山ジャンプ競技場ガイド実習 相互評価表】氏名：

評価対象者氏名：

評価の観点	1点	2点	3点	4点	5点
① 事前学習・eラーニング教材の復習	何も復習していない。ガイド内容をほとんど知らない。	何も復習していない。その場の思いつきで少しかだけ話している。	eラーニング教材を復習している。自分の担当箇所のみを学習してきている。	eラーニング教材を復習している。自分の担当箇所以外も関連する内容を学習してきている。	eラーニング教材を復習している。自分の担当箇所以外も関連する内容を学習し、さらに別の教材や資料も用いて準備している。
② チームワーク	グループのメンバーとほとんど協力していない。自分の担当以外は何も言ったり、手伝ったりしない。	グループのメンバーとあまり協力していない。指示や依頼があった時だけ、何か言ったり、手伝ったりする。	グループのメンバーと積極的に協力している。指示や依頼に対して、熱心にアドバイスしたり、助けたりしようとしている。	グループのメンバーと積極的に協力している。指示や依頼がなくても、自然と困っている仲間に声をかけたり、助けたりしている。	グループのメンバーと積極的に協力している。自分から困っている仲間に声をかけたり、助けたりするだけではなく、他のメンバーも巻き込んで協力を促している。
③ 解説・ガイドの要点	解説・ガイドの要点がない。	解説・ガイドの要点が1つあるが、聞いていてほとんど理解できない。	解説・ガイドの要点が1つあり、聞いていて半分以上理解できる。	必要な解説・ガイドの要点が複数あり、聞いていて概ね理解できる。	必要な解説・ガイドの要点が全て含まれており、聞いていて完全に理解できる。
④ 追加の施設ガイド	独自に調べて追加した施設の紹介・説明がない。	独自に調べて追加した施設の紹介・説明が1つある。	独自に調べて追加した施設の紹介・説明が2つある。	独自に調べて追加した施設の紹介・説明が3つある。	独自に調べて追加した施設の紹介・説明が4つある。
⑤ 表現技法	常に下向きで原稿を読み、語り口調や声の大きさにメリハリがない。聴衆に背中を向け、アイコンタクトがない。直立不動で身振り手振りが無い。	発表の大部分は原稿を見ており、声が小さく、何を言っているか聞き取れない。時折、聴衆に目を向けるが、すぐに原稿に目を落とし、身振り手振りも少ない。	発表の半分程度は原稿を見ている。時折、声が小さく、聞き取れない部分がある。聴衆とのアイコンタクトは少ないが、身振り手振りを加えている。	時々、原稿を見るが、大部分は覚えて話している。大きな声で発音が明瞭である。時々、聴衆とアイコンタクトを取りながら、身振り手振りを加えている。	原稿を読まず、完全に覚えて話している。大きな声で発音が明瞭である。常に聴衆とアイコンタクトを取りながら、身振り手振りを加えている。
⑥ 話すスキル：日本人＝中国語 留学生＝日本語	聞いていて外国語が全く聞き取れない。	聞いていて外国語を部分的に聞き取れるが、ほとんど聞き取れない。	聞いていて外国語の半分程度は聞き取れる。	聞いていて外国語のほとんどが聞き取れる。	聞いていて外国語を完全に聞き取れる。
⑦ 質疑応答	質問に1つも回答できない。沈黙してしまい、質問者に対する応答がない。	1つの質問に回答している。回答できない質問に対しては、わからないと回答するのみで、質問者に対するフォローがない。	複数の質問に回答している。回答できない質問に対して、聞いて後日連絡すると言い、質問者に対するフォローがある。	全ての質問について回答しているが、内容を正確に把握しておらず、不適切な回答が含まれている。	全ての質問について、内容を確認した上で、正確かつ適切な回答をしている。

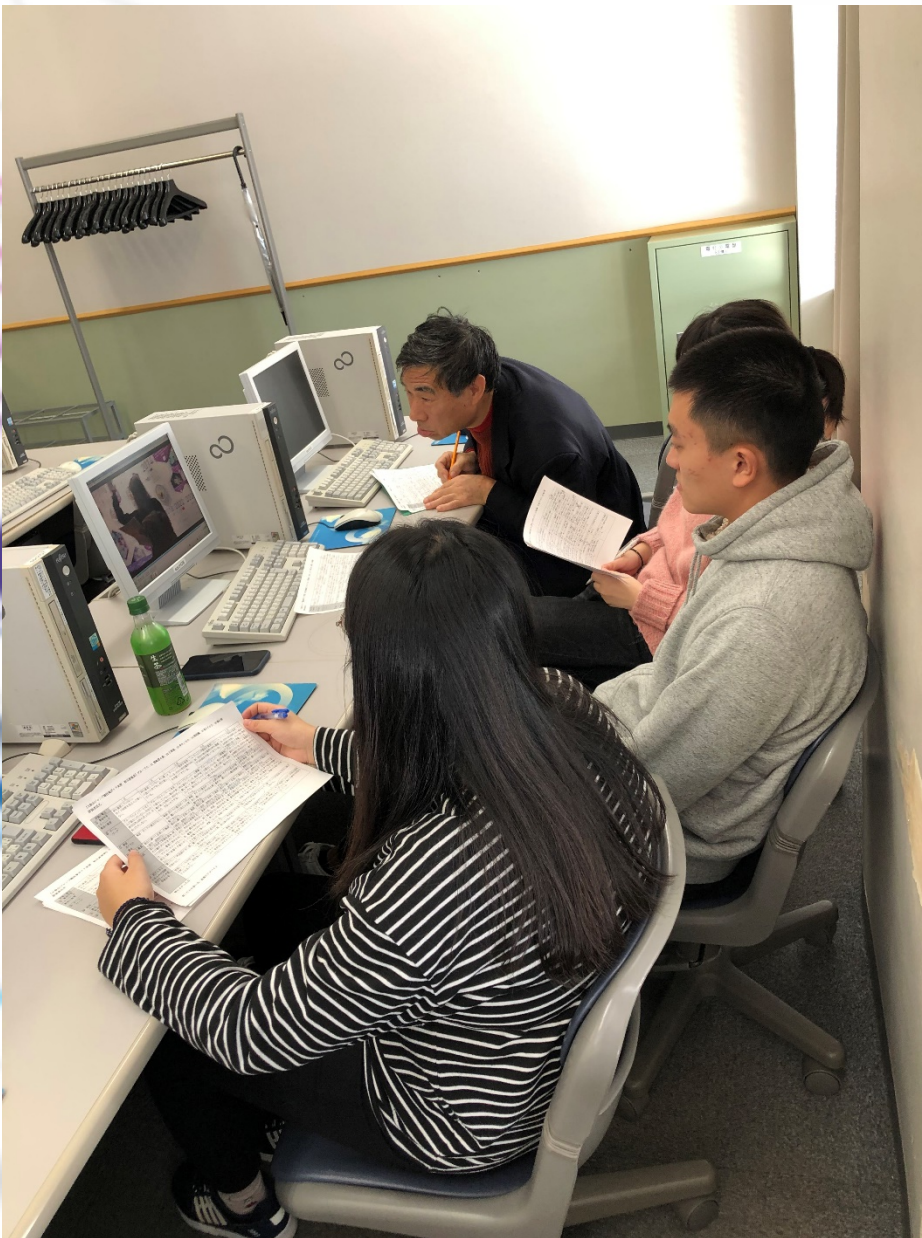
特によかった点：

直した方がよい点：

改善に向けたアドバイス：

**授業時間の都合により教員・実務専門家・学生間質疑は行わず**

# 教育実践：実習動画を見ながら振り返り・相互評価



# 社会人基礎力（経産省, 2006）

経済産業省が主催した有識者会議により、**職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(= 3つの能力・12の能力要素)」**として定義。

## 前に踏み出す力（アクション）

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

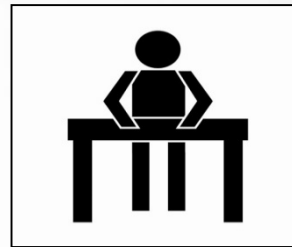
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

## 考え抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

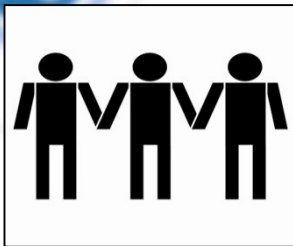
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

## チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

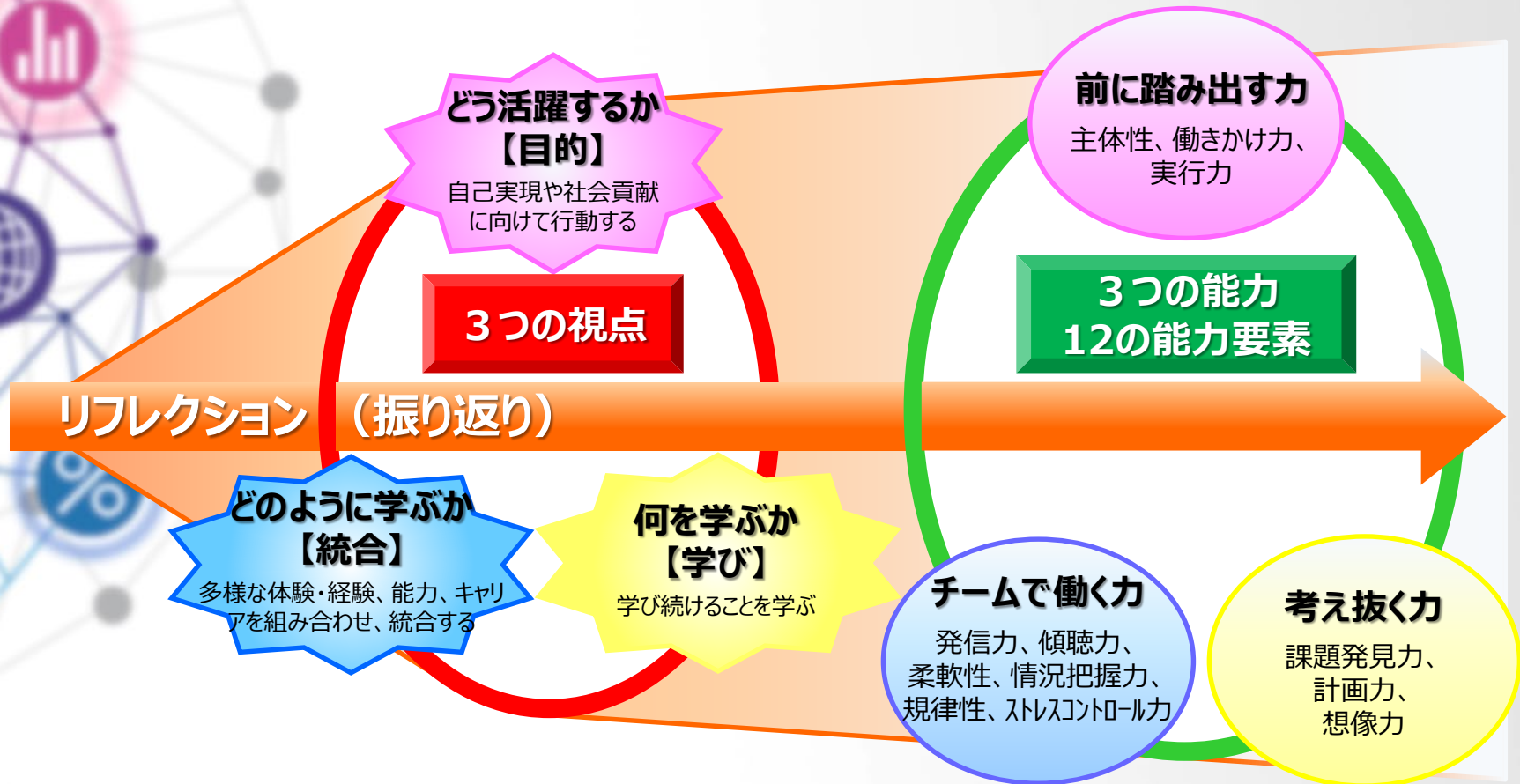
社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

# 人生100年時代の社会人基礎力（経産省, 2017）

「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



# 評価・分析：SPSSを用いた統計分析

n=23（25名のうち日本1、台湾1欠席）

ノンパラメトリック検定  
(Wilcoxonの符号付き順位検定)

## ・記述統計量

	平均値	標準偏差
事前	44.04	5.80
事後	47.43	3.82

## ・信頼性統計量

	Cronbach のアルファ
事前	.858
事後	.811



# 評価・分析

ALを通じて社会人基礎力の自己評価が向上

・全体の平均値 **3.39上昇**

**有意な上昇・効果量大** ( $z = -3.25, p = .001, r = -.68$ )

・項目別に有意な上昇・効果量大

【前に踏み出す力】

・主体性：物事に進んで取り組む力( $z = -3.00, p = .003, r = -.63$ )

・実行力：目的を設定し確実に行動する力( $z = -2.53, p = .011, r = -.53$ )

【考え抜く力】

・課題発見力：現状を分析し目的や課題を明らかにする力( $z = -3.32, p = .001, r = -.69$ )

・計画力：課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力( $z = -3.00, p = .003, r = -.63$ )

・創造力：新しい価値を生み出す力( $z = -3.21, p = .001, r = -.67$ )

【チームで働く力】

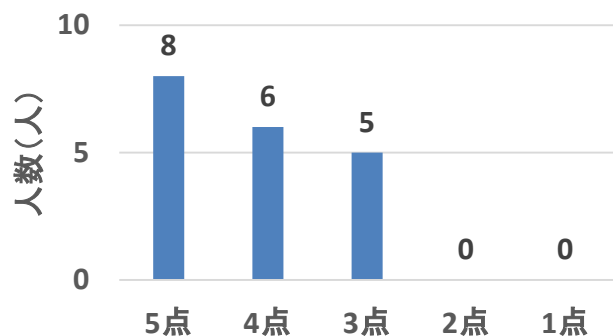
・発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力( $z = -2.31, p = .021, r = -.48$ )

主体性、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力について自己評価が向上

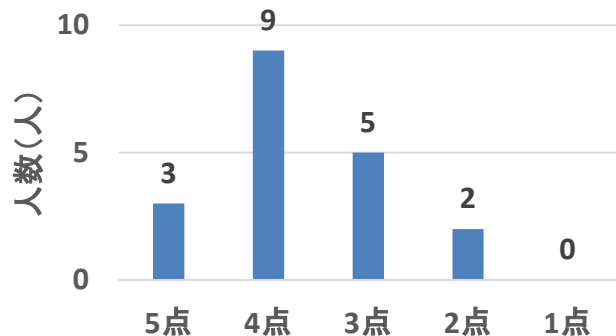
発信力のみ  
効果量是中

# ループリックを用いた相互評価：グループA

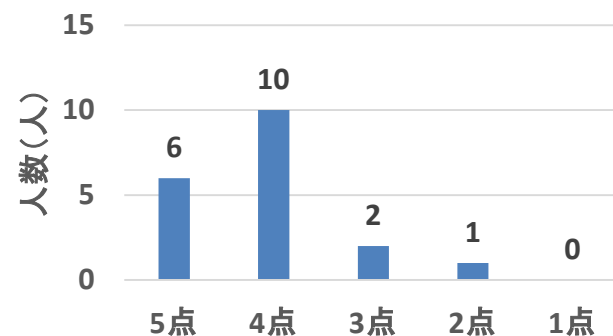
①事前学習・eラーニング教材の復習



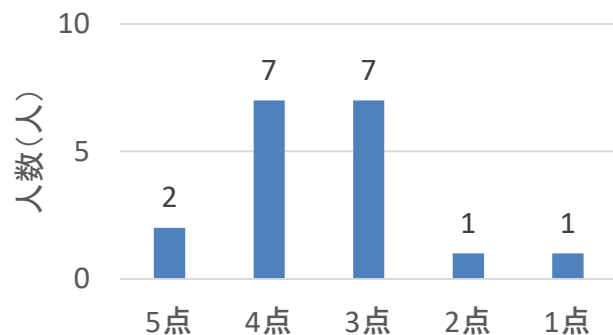
②チームワーク



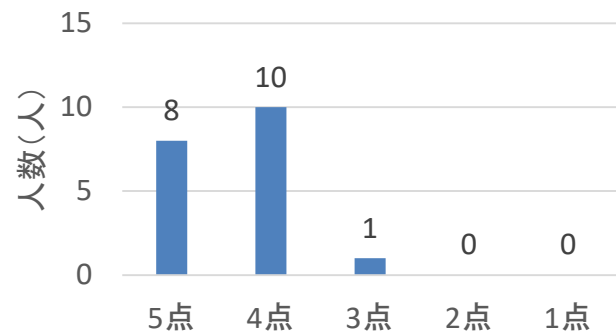
③解説・ガイドの要点



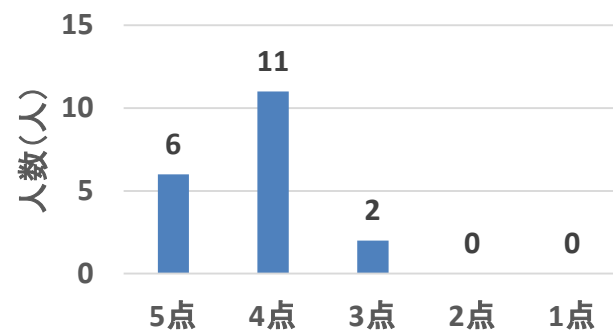
④追加の施設ガイド



⑤表現技法

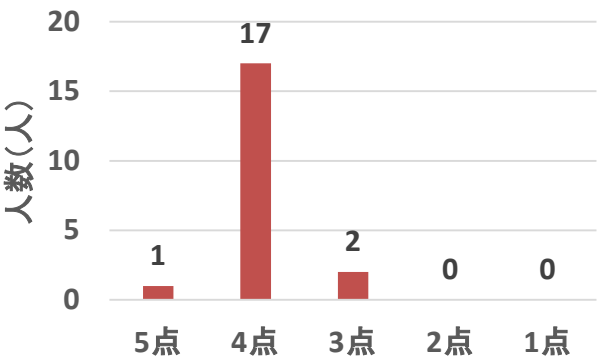


⑥話すスキル

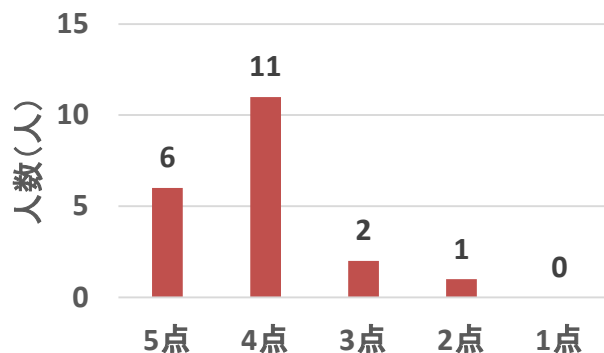


# ループリックを用いた相互評価：グループB

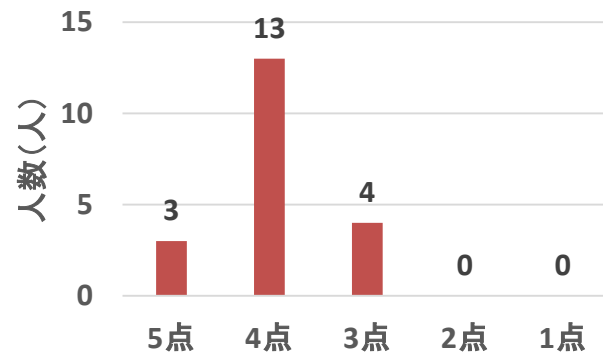
①事前学習・eラーニング教材の復習



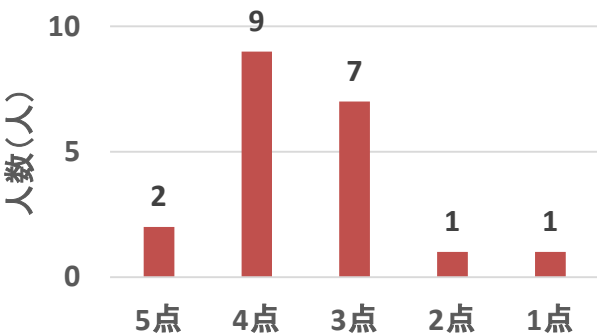
②チームワーク



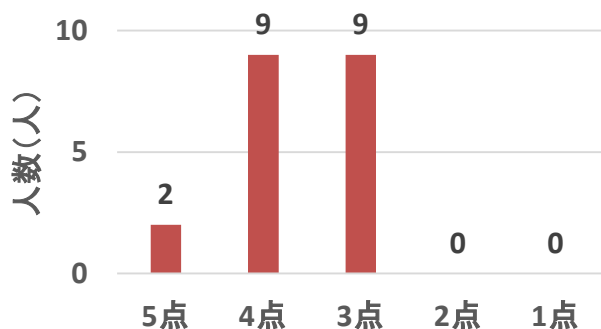
③解説・ガイドの要点



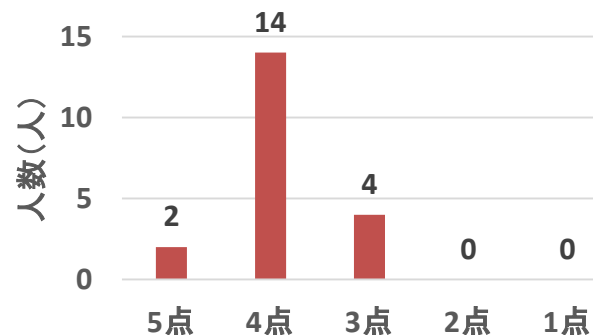
④追加の施設ガイド



⑤表現技法

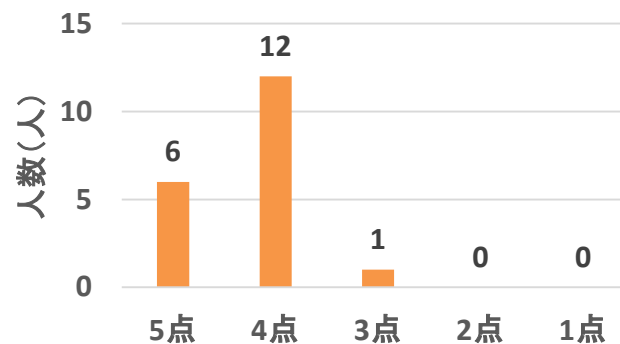


⑥話すスキル

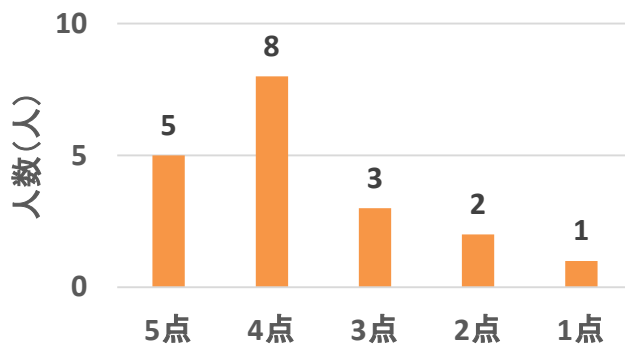


# ループリックを用いた相互評価：グループC

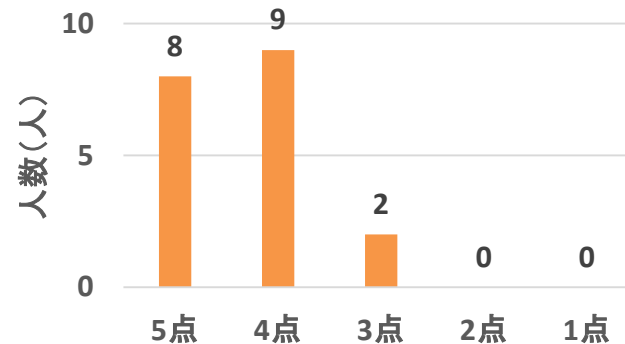
①事前学習・eラーニング教材の復習



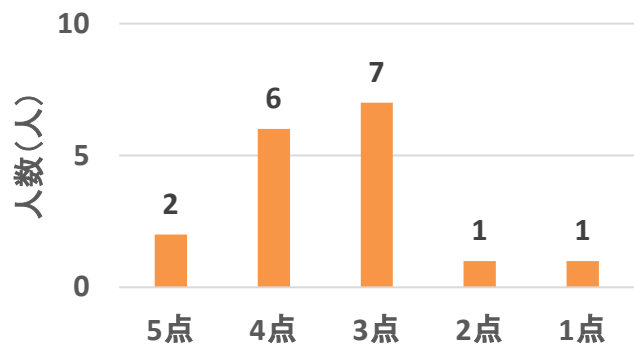
②チームワーク



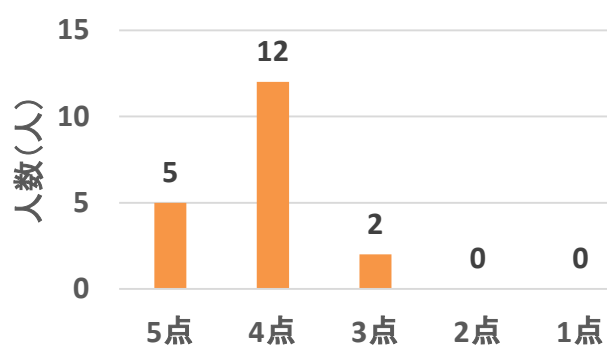
③解説・ガイドの要点



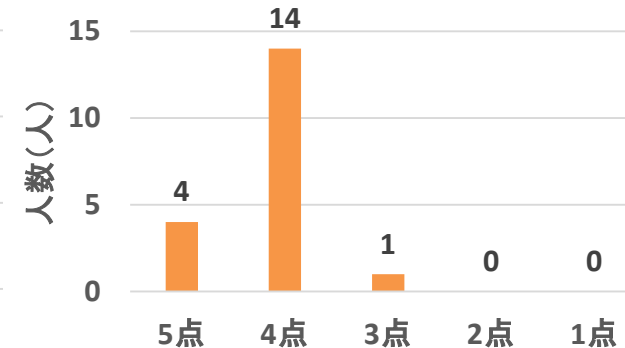
④追加の施設ガイド



⑤表現技法

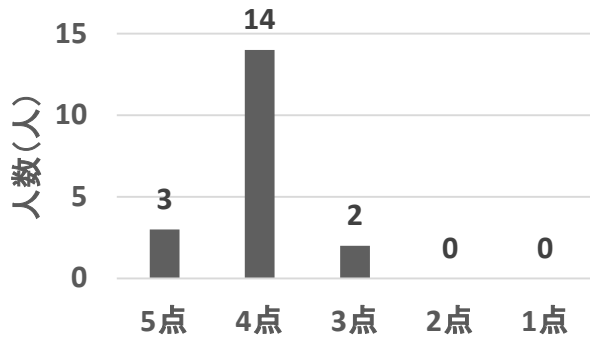


⑥話すスキル

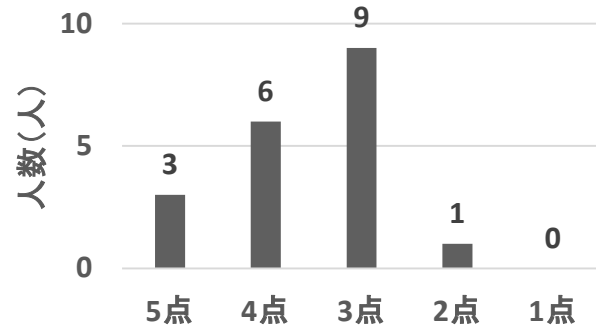


# ループリックを用いた相互評価：グループD

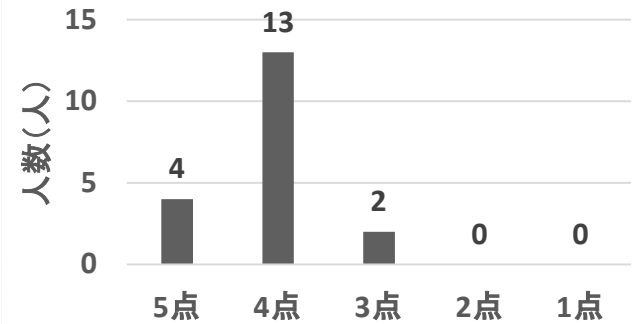
①事前学習・eラーニング教材の復習



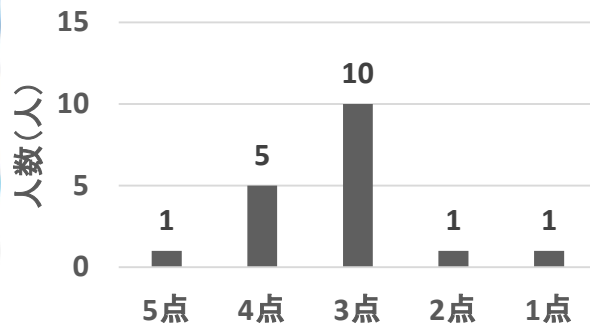
②チームワーク



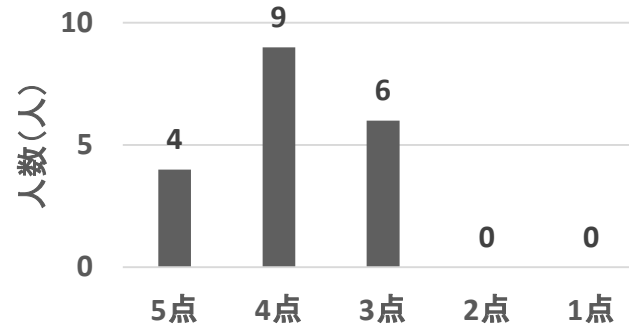
③解説・ガイドの要点



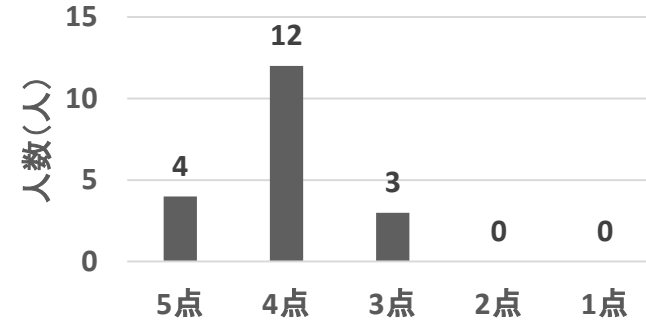
④追加の施設ガイド



⑤表現技法

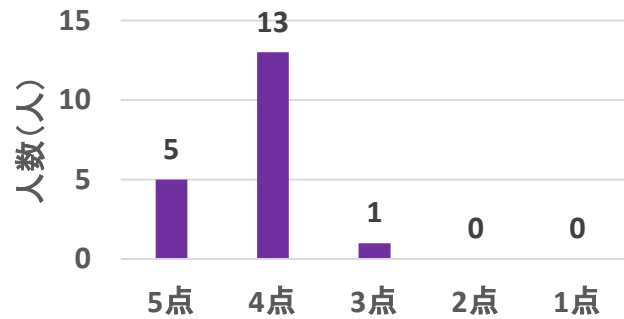


⑥話すスキル

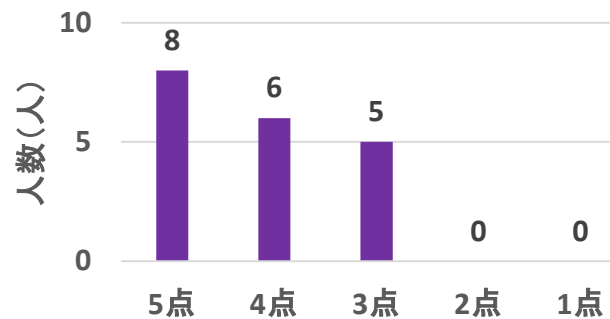


# ループリックを用いた相互評価：グループE

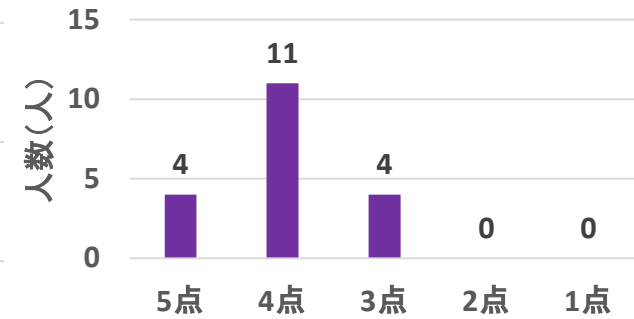
①事前学習・eラーニング教材の  
復習



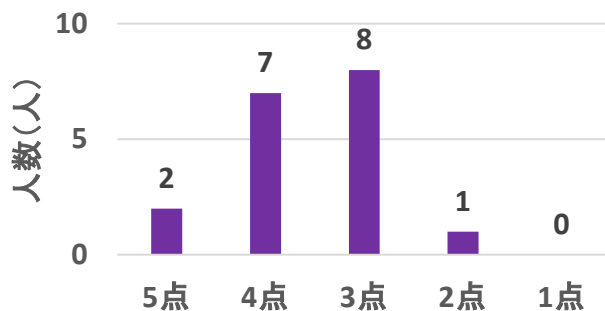
②チームワーク



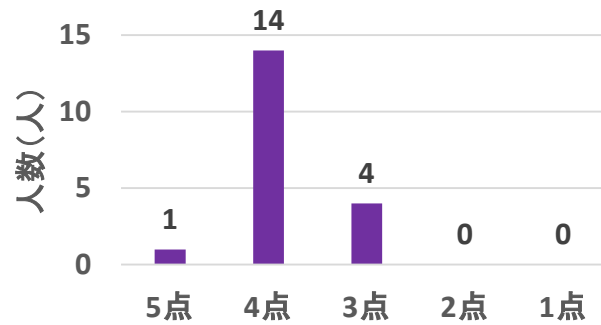
③解説・ガイドの要点



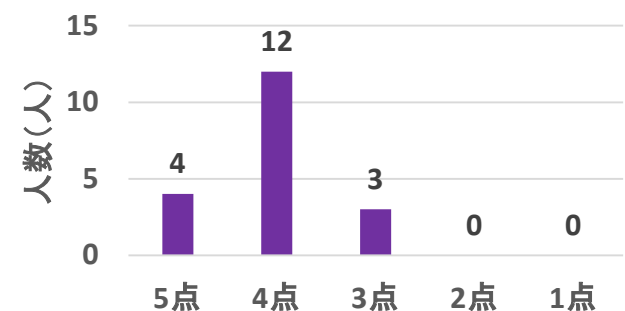
④追加の施設ガイド



⑤表現技法



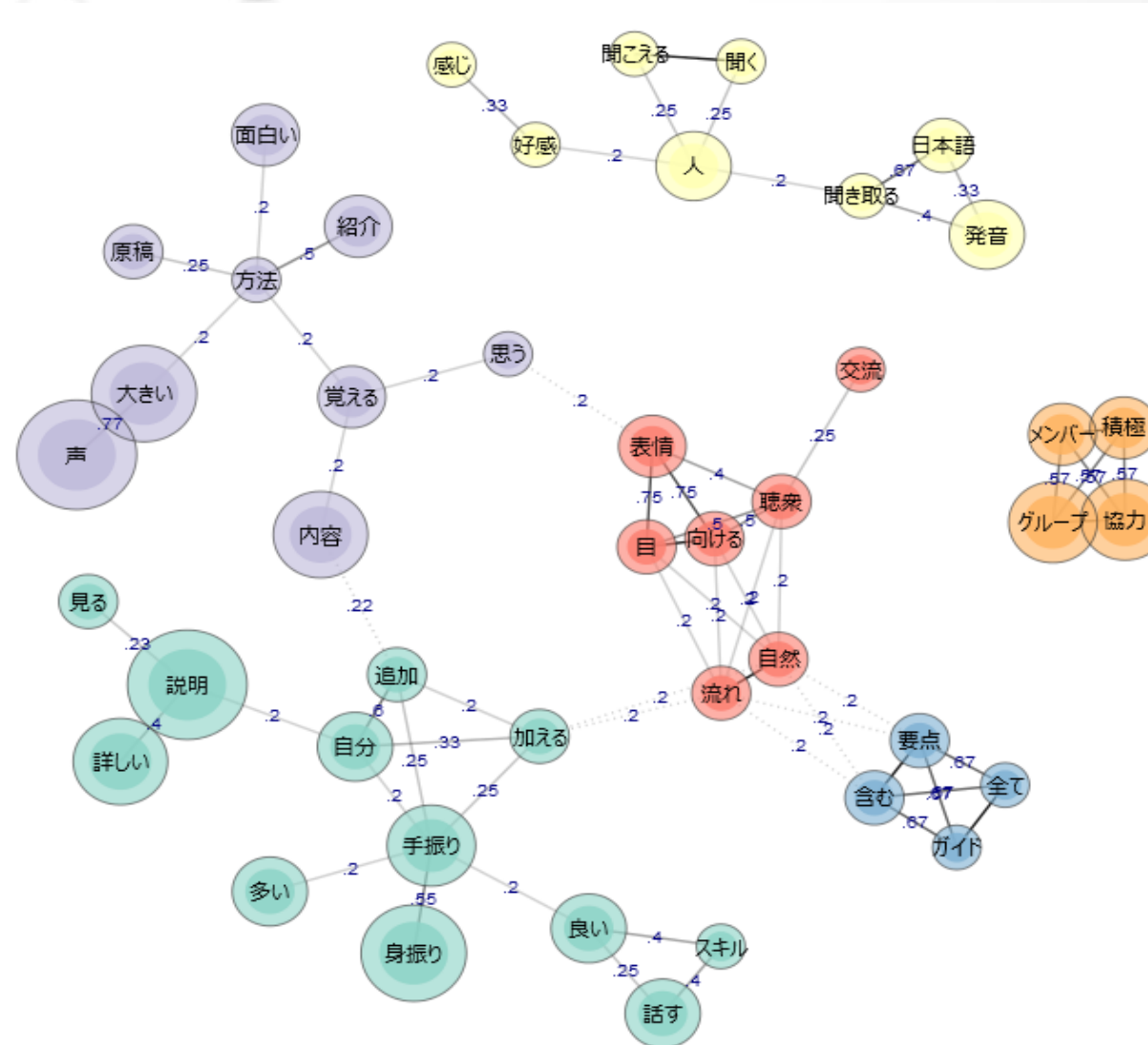
⑥話すスキル



# ループリックを用いた相互評価：全体傾向 (KHCoderを用いたテキストマイニング)

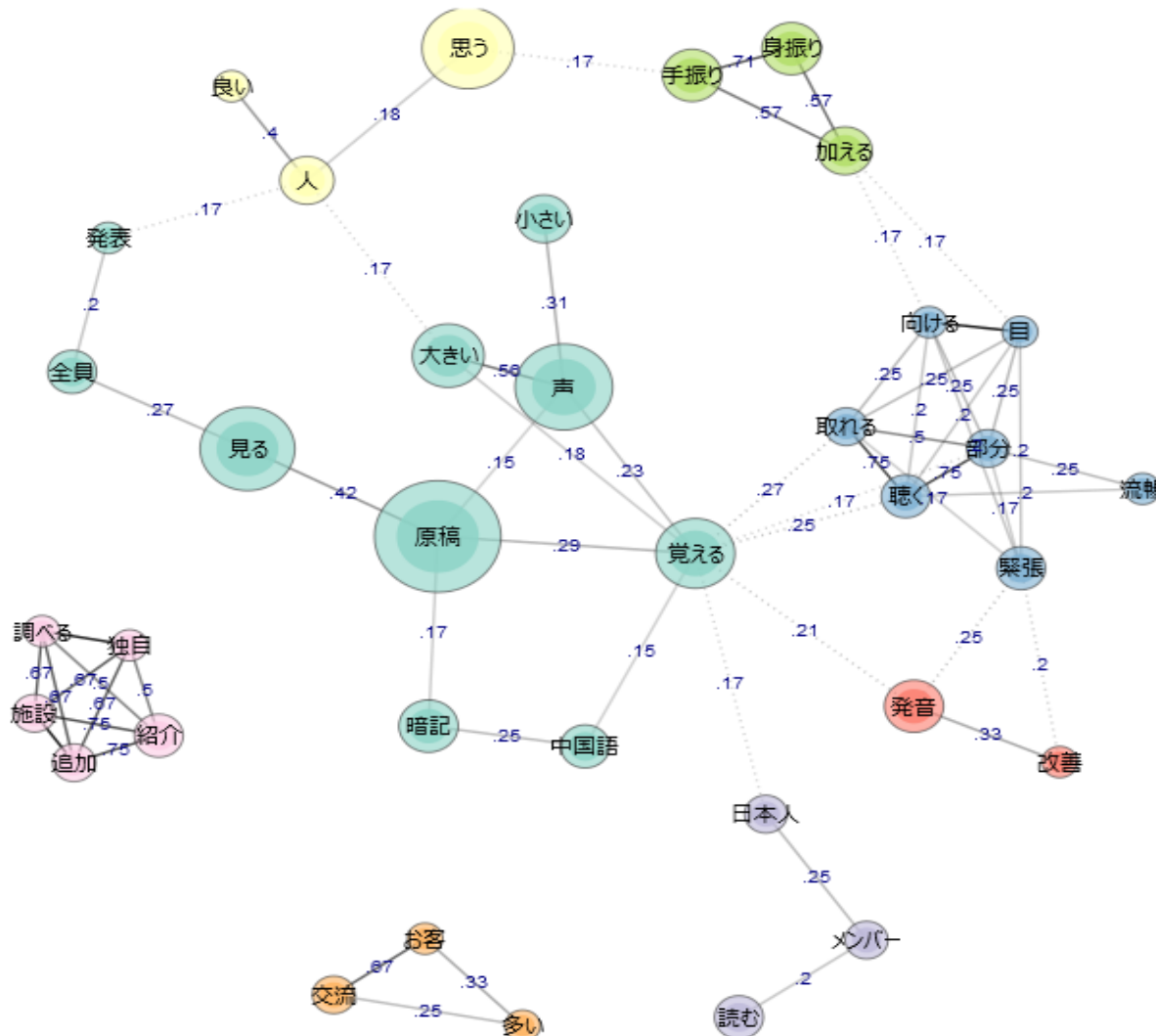
## ・よかった点

- ・ 内容を覚え、大きな声で、面白い方法で紹介した
- ・ 日本語の発音が聞き取りやすく、好感が持てた／好ましく感じた
- ・ 詳しい説明、自分で追加した／加えた内容があった
- ・ 身振り手振りが多くてよかった
- ・ 話すスキルが高くてよかった
- ・ 自然な流れで表情豊かだった
- ・ 聴衆に目を向けたり交流したりしていた
- ・ ガイドの要点をすべて含んでいた
- ・ グループのメンバーと積極的に協力していた



# ループリックを用いた相互評価：全体傾向 (KHCoderを用いたテキストマイニング)

## ・改善が必要な点



- ・ 原稿を見て発表していたので中国語を覚えた／暗記の方がいい（日本人メンバーが原稿を読んでいた）
- ・ 声が小さいので大きくした方がいい
- ・ 独自に調べる施設紹介を追加した方がよい
- ・ 身振り手振りを加えた方がよい
- ・ お客さんとの交流が多い方がいい／聴衆に目を向けた方がいい
- ・ 緊張していて聞き取れない部分があるので流暢に発音した方がいい／発音を改善した方がいい



# まとめ

本研究のALデザインは社会人基礎力の向上に有効  
(主体性、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力)

## 学習者による相互評価

- ガイド解説内容の習得度高 (要点、詳細、オリジナルの追加)
- 表現の工夫 (話し方、身振り手振り、表情豊か)
- 流暢な発音スキルが聴衆に好印象
- インタラクションの工夫 (アイコンタクト、声かけ、交流)
- チームワークの良さ、グループ内での協力

- 中国語学習者の暗記・練習不足 (原稿読み、聞き取りづらさ、発音、流暢さ)
- 自信のなさ、声の大きさ、緊張
- オリジナルの追加不足
- 表現の工夫 (身振り手振り)
- インタラクション不足 (アイコンタクト、交流)

→授業内タスクの検討、レベル別指導の強化、実践に近い環境でのアウトプット増強の工夫が必要

# 今後に向けて

- **コンテンツの更新、拡充**  
例) 乳製品工場、ビール工場、体験型施設 等
- **既習知識・スキルに基づく協働を増やす**  
例) 地域創生のためのフィールドワークに基づく課題発見学習  
SNSを中心とするメディア活用や広報戦略 等
- **デザイン思考やクリエイティブ・シンキングの導入**  
例) グラフィック・ファシリテーションと通訳訓練のメソッドの共通点を活用
- **質的データの確実な収集：**  
学習経験が情意面に与える影響  
学習成果の差に関する詳細分析  
リフレクション活動の充実

e-Learning de 北海道×中国語ガイド

e-daoyou.org



ユーザー登録希望者は杉江まで  
ssugie@imc.hokudai.ac.jp

# 参考文献

- 樋口耕一 (2014). 『社会調査のための計量テキスト分析 —内容分析の継承と発展を目指して—』, ナカニシヤ出版. (KHCoder公式サイト <https://khcoder.net/>)
- 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議 (2016). 「明日の日本を支える観光ビジョン—世界が訪れたくなる日本へ—」
- 上野之江, 尾田智彦, 森越京子 (2014). 「MICEの英語教育への導入について—新しい観光英語の可能性—」, 北海学園大学学園論集, 162, 21-42.
- 観光立国推進閣僚会議 (2019). 「観光ビジョン実現プログラム2019—世界が訪れたくなる日本を目指して—」
- 末松和子 (2017). 「『内なる国際化』でグローバル人材を育てる—国際共修を通じたカリキュラムの国際化—」, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 3, 41-51.
- Sugie, S. (2019). Development of the Mobile Learning System for Local Tour Guide Training in Chinese. proceedings of the 25th International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing (CollabTech 2019), 23-26. (Sep, 2019, Kyoto Research Park) Available at [https://inolab.slis.tsukuba.ac.jp/global/2019/proceedings/Poster\\_Proceedings.pdf](https://inolab.slis.tsukuba.ac.jp/global/2019/proceedings/Poster_Proceedings.pdf)
- 寺本潔 (2016). 「観光の教育力と教材開発による人材育成 —那覇国際高校 (SGH) への出前授業を通して—」, 論叢: 玉川大学教育学部紀要, 16, 101-116.
- 寺本潔 (2017). 「社会科・観光学習を通して島の発展につながる人材育成—沖縄県石垣島の小学6年生への出前授業と中学生観光シンポジウムを振り返って—」, 論叢: 玉川大学教育学部紀要, 17, 37-56.
- 星野洋美 (2017). 「外国語活動と他教科の連携による内容言語統合型学習の成果と課題: 家庭科との連携によるCLIL実践の試み」, 常葉大学外国語学部紀要, 34, 25-33.